

「復活の土台に生きる人生!!」

～己の心を知る～

ヨハネ20：19～29

あなたは自分の心を知っていますか。自分の内のある、本当の気持ちを理解できていますでしょうか。聖書の中に、トマスという弟子が出てきます。彼は、イエス様の復活の際に居合せませんでした。そのことで一人疎外感を感じたトマスは、「わたしはその手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れてみなければ、決して信じない」（ヨハネの福音書20：25）と、うっかり表現してしまうことから、「不信の者トマス」と揶揄され、反面教師のように扱われてしまいます。しかし彼の真意は、どうだったのでしょうか。本当に復活を信じていなかったのでしょうか。トマスの記述から、彼の感情を掘り下げて探してみると、本当はイエス様が好きで、どんな逆境であろうとも命がけでエルサレムに行こうというイエス様についていこうと熱く語る、不屈の様子が見受けられます。その後実際にイエス様が8日間のち、冷静になったトマスの前に現れた時には、手をさし入れて確認するようなことはしませんでした。その様子から見て取れるように、彼は感情的に口から出てしまった言葉とは裏腹に、さみしさを抱き、現実的な理解を得たかただけなのではないでしょうか。疑いを持っていたのはトマスだけではなく、彼だけが決して特殊だったわけではありませんでした。私たちはとにかく自分たちの習慣や価値観だけで物事を判断をしてしまいがちです。ですからいつも神様を前に自己義の罪を認め、本当の思いや願いを推察し、蓋をせずに素直でいることを神様は望んでおられます。聖書が語り伝えている真理の解釈は実に多様で、そこにこそ神様の作品である根拠があることを見出していきます。教えに真理がなければ真意は伝わりません。正しい者は七たび倒れても、また起き上がる、しかし、悪しき者は災いによって滅びる（箴言24：16）

■ ①本当は何を願うのか～手と脇に!!

私たちはすべき事とやりたい事が分かっているのでしょうか。すべき事があるのに違うことをしてしまったり、ついつい後回しにしてしまったりはないのでしょうか。相手に本当の思いや願いを伝えたいのに、なぜか攻撃をしてしまったりはないのでしょうか。そうしてしまうのは本当のあなたではありません。ですから行動の前に、その一言が出てしまう前に、ひとたび神様を前に静まる必要があるのです。静まって祈る時が持てないと失敗してしまいます。神様を前に自分を探り、自分自身の偽りの心に勝利しなければなりません。本当のことを言わない人生をやめて本当の自分で生きましょう。

■ ②悔しさと比較に勝つ!～見えない裏に!!

神様はそれぞれに通る道、役割、目的を、それぞれに最適なものをご用意してくださっています。誰一人けっして同じ道などありません。ですからナンセンスな比較を捨て、自分にとって必要な戦いから逃げずに勝利していきます。そうしていく中で本来の姿に作りかえられ主の計画の内に進み入ることができるのです。信じないで比較をしていく果てには、悔しさを引き起こします。人を見ず、あきらめず、物事の表面の情報を捨てて内面をよく理解し、心の訓練を受け入れましょう。

■ ③ルールと秩序!!～力と愛と慎み

ルールと秩序の違いを理解できていますでしょうか。ルールとは、行動に制限をかけることであり、そこには理解や思いやりを介在させていません。ルールばかりに目が向いて、結果主義な行いは歴史を否定して新しいこと試みようとする行為であり、とても危険があります。その目線はすぐ目の前の今しか範疇に収めることができません。ルールで人を治めることは到底できません。秩序というのは、どうあるべきかをよく考えて心で行動をし、その目線は先を見据えます。秩序を重んじることは力と愛と慎みであり、そのどのバランスを欠いても成り立ちません。先達の築かれた歴史を土台にしたうえで、さらに新しいことを取り入れていき、神様が与えた人生の道しるべに忠実であろうとします。

まとめ

復活の力を信じ、力と愛と慎みの秩序にのみ存在する。私たちはそれぞれの道に秩序が存在し、また自らを秩序の中に導くことにより、自らの力で行うのではなく聖霊さまの働きを進めていきましょう。またトマスはこれまでの考え方や方法、価値観を捨てて復活を信じた結果、聖霊さまに触れられ変わりました。そして彼のその後の行動は人々に証しする生き方になりました。イエス様は十字架の技を通して、多くの種を蒔いてくださいました。そしてそれを、たくさんの先達が蒔き続けてくださった労苦を覚え、「蒔かないものを刈り取る世代」といわれる私たちですが、思いをまっすぐに受け継ぎ、感謝して蒔いていくことができますように、心の中心に真実を置いていきます。

(要約者:牧 三貴子)

(4月3日)